

山 弓 連 令和元年第5号

令和2年2月 発行：山梨県弓道連盟

令和二年 さらなる上達のために ～「再現性」の向上と「言語化」～

山梨県弓道連盟会長 菊池敏彦

明けましておめでとうございます。新元号「令和」が昨年5月にスタートしました。「令和」には、「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味が込められているそうです。令和の時代が、平和で心豊かな時代になること、会員各位及び本連盟の益々の発展につながることを心からお祈りいたします。

平成31年・令和元年は、昨年に引き続き多くの昇段昇格者が生まれ、また、講習会や各種大会への参加者も多く、盛況であったように思います。全国大会や関東大会においても、もう一息というところで大きな成果につながるのではと思えました。2年越しに準備を積み重ねてきた全日本女子弓道大会東日本の部が、台風19号のために止む無く中止せざるをえなかったことは大変残念でした。しかしながら、準備・リハーサル過程を通して女子会員の競技運営面でのスキルアップが図られ、結束が強くなったと思われることは大きな収穫であったように思います。今後の本連盟の活動に生かしてもらえれば幸いです。

さて、弓道は28m先の、直径36cmの静止している的を射止めるという、極めてシンプルな競技です。従って、的中する確率を高めるには、「正しい射行が繰り返してできること」が求められます。いわゆる「再現性」を高めることです。10回試行するなかで、

正しい射行で的中することが1回できた。明日は2回、明後日は……。この確率を向上させることが即ち「再現性」を高めることです。では、どうやったら再現性を高めることができるのか。

そこで提言したいのが「言語化」です。射法八節の要点は教本1～4巻他多くの文献に詳説されています。講習会等で講師の先生方から教授されたことも重要です。そして、日常の稽古の中で、教本等に書かれていること、教授されたことを如何にして自分のものにしていくかが重要となります。「言語化」については、月間「弓道」2019年9月号の閑話弓題「形状記憶と弓道修練」の中で徳島県連大恵俊一郎会長（前全弓連副会長）も触れられています。何となくのフィーリングではなく、正しい射行を確実に繰り返すために、射法八節の各節それぞれに、自分なりの「言葉・表現」を見出すことです。それも、できるだけシンプルなものを。そうすることで、正しく同じことを再現しやすくなるのではないのでしょうか。なるほどと思われた方はぜひ取り組んでみてください。

山梨県弓道連盟の活動は、各支部・各道場の日々の活動がもととなっています。引き続き、それぞれの支部・道場において活発で創意ある活動を期待します。そして、一人でも多くの弓道愛好家が県連に集い、県の大会・講習会・審査会等を盛り上げ、全日本選手権大会・関東選抜大会、国民体育大会等において山梨旋風を巻き起こしてくれることを祈念して年頭の挨拶とします。

昇格おめでとうございます

特別臨時中央審査（東京）

令和元年12月22日（日）

教士 標 哲也（笛吹）

大会結果

令和元年 納射会

令和元年12月8日(日)小瀬武道館弓道場
競技に先立ち郡内ブロック、峡中ブロック代表者による演武が行われた。



郡内ブロックによる演武



峡中ブロックによる演武

競技の結果は以下のとおり。

射数 納射一手と四ツ矢 計6射

参加申込人数 72名 参加者 64名

順位	氏名	支部名	段位	的中数	競射結果
優勝	山下 弘行	山梨	錬士五段	5	○
2位	栗原 勇喜	富士吉田	弐段	5	×
3位	渡辺 洋	中央	錬士五段	5	×

遠近競射による。

5中者5名による射詰め競射



令和2年 初射会

令和2年1月5日(日)小瀬武道館弓道場
年初にあたり菊池会長からのご挨拶に続き、昨年の昇段・昇格者の紹介と祝賀行事が行われた。
会長の矢渡しの後、昇段・昇格者による答射礼、
峡北・峡西ブロックによる演武が行われた。



会長による矢渡し



昇段・昇格者による答射礼



峡北・峡西ブロックによる演武

競技の結果は以下のとおり。

射数 祝射一手と四ツ矢 計6射

参加申込人数 75名 参加者 67名

順位	氏名	支部名	段位	的中数	競射結果		
優勝	豊田 浩正	甲府	五段	6	○	○	
2位	山本 一博	教職員	五段	6	○	×	
3位	中村 昌夫	山梨	錬士六段	6	×		

社会人の部

	チーム名	選手名	支部名	得点
優勝	山梨青	中村 昌夫	山梨支部	81
		古屋 清記		
		山下 弘行		
準優勝	白根	内藤 良太	南アルプス支部	78
		長澤 和久		
		中込 実		
第三位	富士吉田A	渡辺 雅宏	富士吉田支部	77
		栗原 勇喜		
		鍵和田 哲史		

【個人】

高校生 最高得点賞 野木 萌々花 富士北稜高

社会人 最高得点賞 山下 弘行 山梨支部

【ゴールド賞】

鍵和田 哲史 (富士吉田支部) 山下 弘行 (山梨支部)

田村 宏予 (上野原支部) 棚本 佳秀 (大月支部)

宮下 玲音 (甲府商業高校)



高校三年生・社会人交流射会

令和2年1月25日(日)小瀬武道館弓道場
開会式では高校3年生に対して会長賞、優秀選手賞の表彰が行われた。その後は各支部代表者が高校3年生に対し、支部の特徴などのPRを行い卒業後の弓道を続ける場を紹介した。教職員の方々による演武の後競技が行われた。

競技は今回初めての試みとして、日頃稽古している道場単位の団体戦とし、しかも色的を使った得点制で競い合った。結果、1点を争う展開となり、日頃的中制とは違った弓のおもしろさを味わった。

競技内容： 3人団体戦 各自4矢2回 得点制(中心から10、7、5、3点)
参加申込チーム 34チーム 参加者 95名

【団体】

高校生の部

	チーム名	選手名	得点
優勝	韭崎高A	菊池 琢斗	56
		中島 瑠威	
		小野 由葵	
準優勝	甲府工業A	有泉 亮汰	56
		村田 大空	
		卯花 太裕	
第三位	富士北稜A	荒井 勇人	55
		杉田 勇斗	
		野木 萌々花	

上位得点の多い方が優位



大会風景



団体・個人入賞のみなさん

第2回 評議員会開催

1月5日 初射会後第2回評議員会が開催され、各部部长より活動報告が行われた。



寄稿

三十三間堂「通し矢」のこと

遠的競技とも言えるような通し矢が始まったのは、今から約450年前の1565年(永禄8年)に、京都熊野観音三十三間堂の通し矢が最初であると「矢数帳」に記録されています。(矢数帳とは通し矢に挑戦した記録、現代弓道講座(7)年表用語編一雄山閣)京都熊野観音三十三間堂で通し矢が始まった8年後の1573年(天正元年4月12日に武田信玄が下伊那郡阿智村(信州駒場)の地で53歳でこの世を去っております。そんな頃に三十三間堂の通し矢は始まったのです。

その後、京都三十三間堂の通し矢や江戸深川三十三間堂で行われたと矢数帳に記録されております。(京都三十三間堂年代矢数帳、江戸深川三十三間堂、東都三十三間堂矢数帳)大記録が出たのは1686年紀州藩士 和佐大八郎が8,133本通して天下一となりました。その頃の時代背景は、生類憐みの令があった綱吉の時代であり、また赤穂浪士四十七士の事件のあったそんな頃に和佐大八郎は天下一となったのです。

通し矢は夕方に始まり、次の日の夕方までに三十三間堂の廊下 120mを壁にも天井にも矢が当たらず一日何本通したか……。という事で、和佐大八郎は一日に射放った総数は13,053本で一本射放すのに平均すると約7秒です。驚くべき体力で、現代の弓引きには真似も出来ないのではないかと思います。三十三間堂と言っても一般住宅の倍の広さにつくられており、120mとなるのです。現代では遠的と言うとその半分の距離60mで行っております。

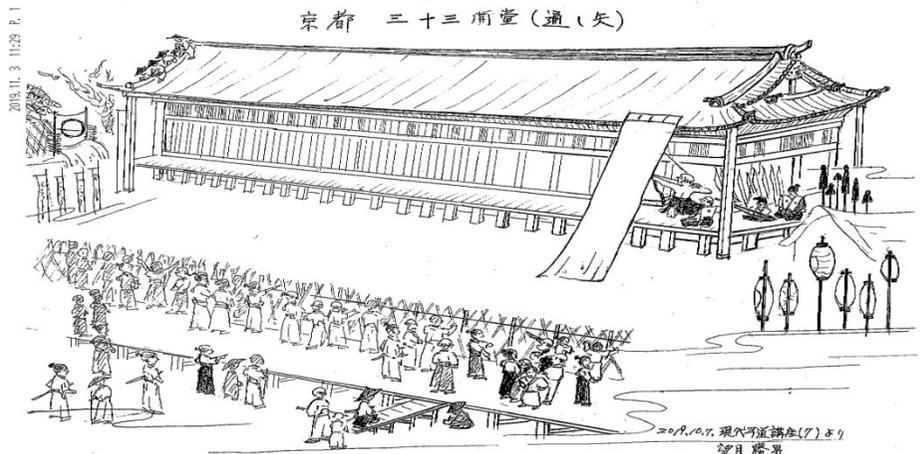
当時の通し矢の様子を描いた絵を見ると(呉春画)三十三間堂の廊下の端で「つくばい」の射法で壁の方に向けて弓を引き絞っている姿があり、後方には10本程の弓が立てかけてあり、三~四人の人が弓具の手入れをしているような姿が見えます。

射手の日除けでしょうか、屋根から幕が吊るしてあり、又廊下の離れた所に大きな幕があり、その中に大きな丸が描かれております。屋根の上に四~五人の人が登っている姿があり、何の為に屋根にいるのか、矢が通ったか判定する人達でしょうか。

会場の周辺には大きい提灯や、藩の旗などが何本も立っているのが見えます。テントの中では藩の人達が心配して見守っているのではないかと想像します。一般の見物人は竹で区切られた柵越しにのぞくように見物している姿が描かれています。

和佐大八郎が天下一となってから約180年後の1866年(慶応2年)、江戸深川三十三間堂の通し矢が最後であると矢数帳に記録されております。時代はまさに列強の大国に日本が開港をせまられた不安な時代まで通し矢は行われたということです。

(身延支部で初めて遠的を作ったのを期に)
2019年10月 望月 勝男(支部長)



編集後記

新しい年を迎え、みなさんそれぞれに新しい目標に向けスタートを切られたことと思います。思うように上達しないと悩む方も気持ちの切り替えの時です。新たな気持ちで出発しましょう。

広報担当のメールアドレスが変わっています

(新) koho39ren@kyudo-yamanashi.com (綿奈部)